

風の流氷

一般投稿作品 広報委員会 選

山椒の芽吹き待たれる五目ずし 有澤 春江
 アスハルト割目より咲くすみれ草 白井 幸子
 田の底も春風吹けよ耕耘機 岡本 朴舟
 青空に若葉の映える峡の村 岡村 和躬
 病食に菜の花和えを添えくれし 小原 子川
 枝切りし銀杏の幹に初夏の風 小野寺朱実
 満開の花に賑わう高知城 北村千鶴子
 遍路道会釈一言同行に 高野 和一
 それぞれに色を押し出す山若葉 千頭 野草
 真新しうつ伏せもあり落椿 西尾 玉喜
 風に乗る水面を染めし花筏 原 美幸
 足のうら小鎚で叩き踏露す 福留とものり
 つぎつぎと小鳥持て成す桜かな 三谷 誠郎
 過去形を諫めるように青嵐 森本 幸美
 初蛩の歌碑に寄り添へり 山崎 貴子

かがみ野俳句会
 春暁の肩に冷えある目覚めかな 佐竹 洋子
 友の手に支えられつつ花の中 鍵山 和枝
 夕月や学舎の桜静まりて 佐藤 幸
 氣配りの思ひ届かぬ花の冷 利根 弘子
 芽木雨や七郷萌黄色なして 古川 信子
 日々を吾のみ登る丘あり鳥雲に 小松 愛子
 花は葉に久しぶりなる町へ娘と 西内 保衛

嫁も娘も共に厄年花りんご 中澤 美晴
 ぼんぼりを灯して神苑花の宴 森本 健代
 踏青や背中のみ出すランドセル 山崎 鈴子
 春星や戻る定めブルーメラン 吉田 芳

俳句 会

捨て船の朽ちるばかりや草おぼろ 公文 春紀
 地下足袋の真新しきへ春の泥 岡本かほる
 桃咲きて鶏時を告げにけり 高橋 章
 啓蟄や店畳みたる農機具屋 北村 幸子
 葱坊主村と言ふものなくなりぬ 西川 常夫
 耕運機止めばくつくつ昼蛙 甲藤 卓雄
 廃校に人住む気配黄水仙 野崎 典子
 つぎつぎと風に白蓮光り合ふ 北村 里子
 春昼の波にゆだねて浮寝鴨 明石 英子
 抱きし嬰に初蝶指してはなしかく 竹内 る草

かほく俳句会

「農継ぐ」と真白き指に春の泥 乾 真紀子
 筍の昼餉に和む嫁の居て 奥宮さとみ
 囀りに惹かれて道を迷ひけり 久保 貴女
 花の雨特攻兵の碑を拜む 黒岩 幸女
 花万朶心に満つる何もなし 黒岩千英子
 剪定を済ませ職人顔を解く 杉山 春萌
 カーテンを引くをためらふ春の宵 小松 隆之
 下萌や「売地」と書かれ造成地 小松 完
 畑打ちの鍬に感謝の泥洗ふ 小松 昇
 八重椿己が重さにどさと落つ 西本 昶猪
 鍵穴に鍵の拒める臆かな 前田 欣一
 春蚊出づ「ホオちゃん」絵本膝にあり 前田 秀女
 木々芽吹くその中に朴眩しかり 間崎 和代

松蝉ははや滝音に紛れぬて 森本 之子
 葉桜の山に溶け込む雨なりし 山崎かずみ
 逆風の流れに混みし花筏 山中 晶子
 代掻きて大空揺らす水面かな 山中 瑞輝
 落椿道の明るき故掃かず 山中 明石

土佐山田町俳句会

寺の奥に嬰いる気配系桜 前田美智子
 マニキュアの爪が重たし目借時 前田 小夜
 海映る自動ドアの閉じて初夏 安丸 楨子
 散り始む雨後のさくらの荒々し 田村 一翠
 春の花名札どれもが遺筆なり 中沢としみ
 花は葉に人はけむりのごとく老ふ 橋本 昭和
 散るさくら明石掃部はキリシタン 明石 蕪生
 目高飼う火鉢の歪昭和の日 櫻谷 雅道
 柿若葉萌黄の色の昼の飯 馬場 英男
 あの頃といふなつかしさ昭和の日 大石 邦男

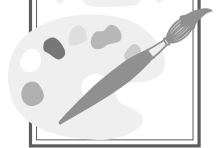
俳句・短歌の投稿方法

投稿方法は自由。(ただし、官製ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)
 かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
 誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】

企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
 〒782 8501 香美市土佐山田町宝町1-2-1
 FAX 53 5958

アートの窓



「大坪美穂展 海界」

開催中 6月15日(日)

現在開催中の大坪美穂展をご覧になって驚かれた方も多いと思います。7メートルを超す天井から吊り下げられた無数の紙縷りがおりなす光と影が、会場いっぱいに広がり、普段とはまったく異なる空間世界を創り出しているからです。

床に広がるたくさん黒い布玉。会場奥に並ぶ黒い衣服をまとった80脚のイスは、まるで黒い壁のようです。

「2001年ニューヨークの同時多発テロ以降、世界各地で戦争、テロ、大量虐殺、民族間の紛争が激化しています。繰り返される人間の愚行。失われた風景。人の営み。かけがえのない命。無念の思いで死んでいった人々

の思いで死んでいった人々

の声なき声」 この文章は、アーティスト・大坪美穂さんが展覧会に寄せて書かれた文章の一部です。戦後の荒廃した東京の街の風景の中で育ったとい



「SILENT VOICE」2003年

無念さが、彼女の身近な人々の死と重なり、それらの思いを一つ一つ紙縷りにつなぎ、布玉に込めて、2年がかりで制作されたものです。大坪美穂さんの「平和祈念」のメッセージを、香美市内のより多くの皆さまに受け止めていただきたいと思っています。今回の展覧会が、世代を超えて「平和」や「命」について語り合える場になることを願っています。また、これらの問題を、アーティストが芸術作品としていかに表現しているかを、じっくりと鑑賞していただきたいと思えます。

ただきたいと思えます。

6月15日(日) 13時30分から作品解説を行います。多くの皆さまのご来館をお待ちしております。

(館長・北 泰子)

第6回吉井勇顕彰短歌大会のご案内

10月12日、勇の再起の地である猪野々で、彼の業績顕彰を目的として開催します。

《作品募集要項》

【作品】 1人2首。自作、未発表のもので主題は自由。応募用紙または原稿用紙に、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、短歌大会当日の欠、送迎バス利用の有無を明記してください。学生の場合は学校名、学年も記入してください。

【出詠料】 1,000円

郵便為替または現金書留にて、投稿時にお納めください。

【締切】

8月20日(水) 必着

【選者】

玉井清弘氏(NHK学園短歌講座「友の会」選者・「音」選者)

楠瀬兵五郎氏(高知県歌人連盟会長)

【入賞発表】

入賞者には9月下旬に、電話連絡します。



【送迎バス】

市役所本庁前より香北支所前経由で運行します。往：12時10分発

(香北支所前12時30分) 復：16時10分発

【注意事項】

・受付後の作品の訂正はご遠慮ください。

・応募作品については、著作権などの一切の権利を主催者が有します。投稿後の作品の返却はいたしません。

・応募に関して知り得た個人情報、短歌大会および当館の業務に関すること以外には使用しません。

【問い合わせ・応募先】

市立吉井勇記念館 吉井勇顕彰短歌大会 歌会係

(〒781-4247 香美市香北町猪野々514)

☎ 58-2220

FAX 57-5995

平成20年6月号

広報かみ

(7)